

【理論編】

第2章

# 活用の時間

～英語での「発信力」を高める授業づくり～

## 「活用の時間」の授業づくりについて

### 「使える英語プロジェクト事業」の取組み

ワーキング(WG)会議の様子



実践研究校の担当者と市町村教育委員会の指導主事が「活用の時間」のコンセプトについて説明を受けました。



【講師】  
関西外国語大学  
国際言語学部  
教授  
中嶋 洋一 氏

### ★ POINTS

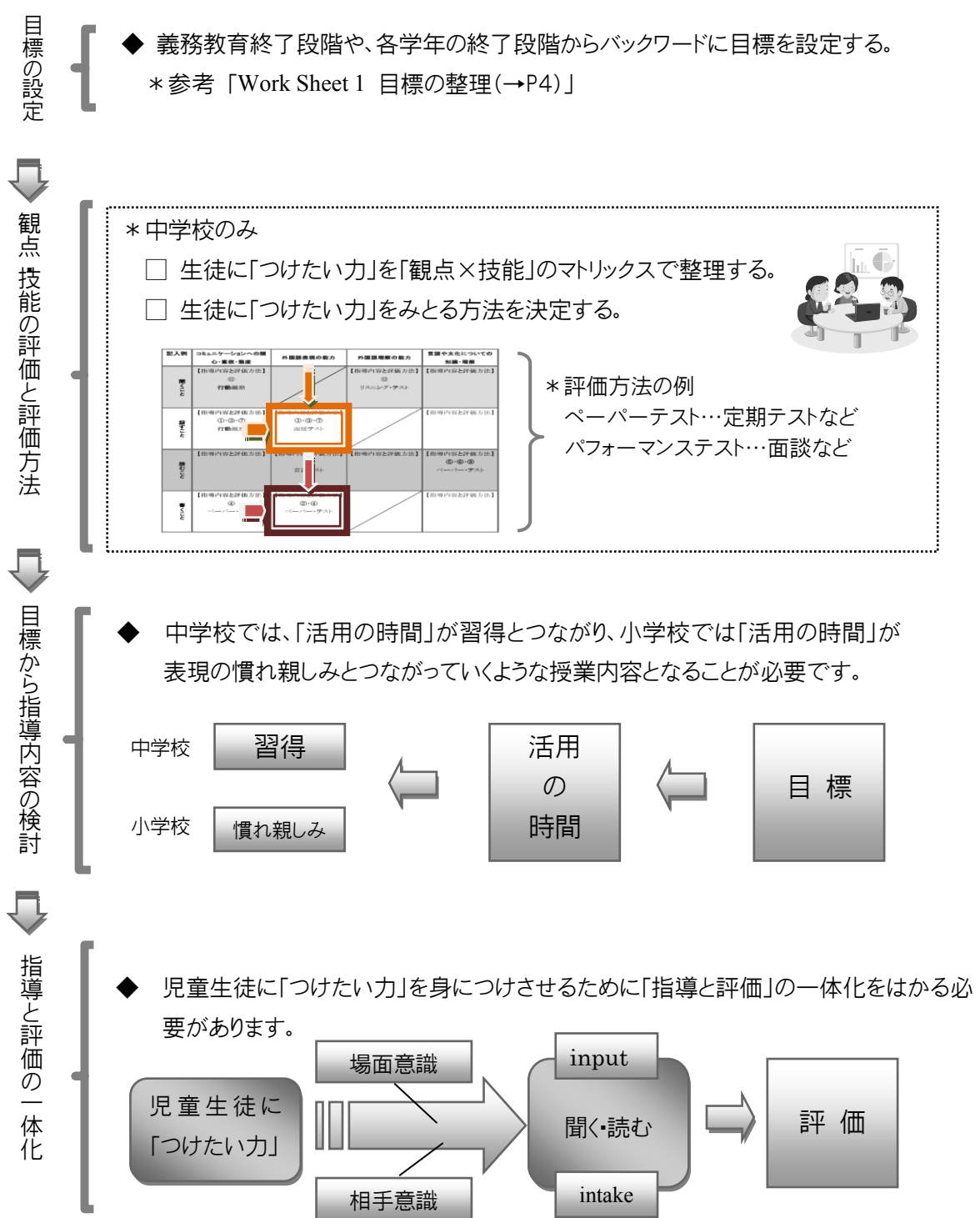
「活用の時間」では、習得した表現を「実際に使いたい」と児童生徒に思わせるために「どのような場面」で「誰に向けて」発信するのかを明確にしておく必要があります。



何のために英語を使うのかという目的意識を持たせ、自己効力感、達成感が感じられる授業をめざします。

- 「活用の時間」における活用とは、断片的な知識をつなぎ合わせることや、新しく調べたことを、既習の知識とつなぎ合わせることで課題を解決することです。
- 技能を統合させるとは、例えば「聞いたこと」をまとめて他者に「話すこと」、(中学校では)内容にまとまりのある文章を「読み」その感想を「書く」など、入力された情報(「聞く」「読む」)を自分の中で理解して、発信する(「話す」「書く」)ことが考えられます。
- 中学校の「活用の時間」では「準備したことを発表する」や「書いてきたことを言う」等のレベルの活動ではなく、生徒自身の知識や思考を組み合わせる要素が含まれている活動であることが重要です。
- 「習得の時間」等で学習した表現を「活用の時間」等で「誰かに向けてメッセージを発信する」ことで、初めて「使える英語」となります。

- 「活用の時間」までの流れをまとめると下図のようになります。



### ★ Check Points

- 活動では、「場面意識」「相手意識」がしっかり考えられていますか？
- 複数の技能を用いた統合的な活動になっていますか？
- ☆ 確認できたら Work Sheet 4 を実際に作成してみよう。



## Work Sheet 4 「活用の時間」のアイデア(記入例 中学校の場合)

## Work Sheet 4

## 教科書と内容

- ▼教科書名 【ONE WORLD】
- ▼授業時期 中( 3 )年の( 2 )学期 ( 11 )月( 下 )旬
- ▼教材の範囲 教科書P89 までの範囲を活用した活動
- ▼指導内容 ① グループで環境問題を取り扱った新聞をつくる。  
② 作成した新聞の内容をクラスメイトにプレゼンテーションし、その内容に関する質疑応答をする。

## 目標と評価

◆目標: プレゼンテーションに対するクラスメイトからの質問を正確に聞き取り、文と文とのつながりに注意しながら適切に質問に答える。

- 統合させる技能  聞く→話す  読む→話す  聞く→書く  
 読む→書く  その他( → )
- 評価する技能  聞く  話す  読む  書く
- 評価する観点  関心、意欲、態度  表現  理解  知識、理解
- 評価する方法  ペーパーテスト  パフォーマンステスト

## 活用の時間「の授業アイデア

◆主な活動形態  個人活動  ペア活動  グループ活動

## ◆「活動の時間」の手順

- ① > 事前に作成した環境新聞の内容をグループ単位でクラスメイトにプレゼンテーションする。(2分以内)
- ② > 「聞き手」は、プレゼンテーションの評価シートに記入し、質疑応答のために内容に関するメモをとる。
- ③ > プレゼンテーションの内容に対して質疑応答する。(3分)
- ④ > 発展例: プレゼンテーションの感想を書く。

## 【作成のポイント】

- 「聞かれたことについて説明する」「読んだものについて感想を書く」等複数の技能を統合的に活用する場面がある。
- コミュニケーションをとる場面で「どんな状況か?」という「場面意識」がある。
- コミュニケーションをとる場面で「誰に?」という「相手意識」がある。



## 【参考資料】

- British Council の Teaching English にも参考になる教材等が豊富に掲載されています。  
Teaching English <http://www.teachingenglish.org.uk/>

## 【その他】

- 小学校は、「わくわくシート(→P138)」が、「活用の時間のアイデア」になります。



共有 MEMO 欄

\* 研修会や教科会議等で「気づいたこと」を書き残す欄です。  
どんどんアイデアを書きたしてください。

